

はじめに

簿記の学習や経理の仕事は、過去の取引を一定のルールに基づいて、数値に置き換える作業です。つまり、簿記の学習や経理の仕事は定型的なものであり、10人の人がいれば、10人とも同じ答えが出るようになっています。そのため細部にわたって様々な規定が設けられており、個人的な裁量をできるだけ排除する仕組みになっています。

本講座で学習する財務分析は、こうして出来た財務諸表に対し、いろいろな角度から光をあてることによって企業の現状を把握し、その企業の抱えている問題点とその改善点を明らかにします。更にまた、企業の将来像まで描くことにあります。そして、財務分析から導き出される答えは、10人が10人とも違った結果となるでしょう。

ただし、ここで次のことに注意してください。すなわち本講座では一般的に思われがちな財務分析の比率の意味や算式を個別に解説するものではないということです。財務分析という全体像の中でそれぞれの比率を位置付けることで、受講生の皆様が自然に財務分析の体系を理解し、分析する力を身につけていただけるように構成しています。また、出来る限り実例を盛り込むことによって、実務に活かせるようにも配慮しています。

以上により、本講座では受講生の皆様が、企業活動をベースとした財務分析の手法を理解され、財務分析を基礎とした**経営感覚**を身に付けていただけることを目指しています。

本講座を受講された皆様が、その内容を実務の中で活用し、成果をあげてくださるようお祈り申し上げます。

財務分析講座 担当一同

参考文献

- | | | |
|--------------------------|------------|---------|
| 「ビジネス・ゼミナール 経営分析入門」 | 森田松太郎著 | 日本経済新聞社 |
| 「経営分析の知識」 | 岩本 繁著 | 日本経済新聞社 |
| 「財務分析の実践活用法（五訂版）」 | 大野 敏男著 | 経済法令研究会 |
| 「実践財務諸表の見方」 | 大野 敏男著 | 経済法令研究会 |
| 「はじめての経営分析」 | 宮田 守著 | 日本実業出版社 |
| 「基本経営分析」 | 上原 学著 | 同友館 |
| 「実践 資金繰り実務」 | 平井 謙一著 | 生産性出版 |
| 「資金表と財務分析の実務」 | 資金分析研究会編 | 税務経理協会 |
| 「わかりやすい 資金管理の実務」 | 筒井 英治著 | 中央経済社 |
| 「わかりやすい 資金繰りの実務」 | 和井内 清著 | 中央経済社 |
| 「会社を強くする 資金繰りのテクニック」 | 田畑 真七著 | オーエス出版社 |
| 「資金繰り地獄から抜け出す本」 | 青木三十一著 | かんき出版 |
| 「かゆいところに手が届く 資金繰りの本」 | 河本泰行・石野誠一著 | 明日香出版 |
| 「キャッシュフロー計算書をつくる本」 | 金児 昭編 | あさ出版 |
| 「キャッシュフロー計算書」 | 岩崎彰・橋村義憲著 | 日本法令 |
| 「キャッシュフロー経営入門」 | 中沢恵・池田和明著 | 日本経済新聞社 |
| 「キャッシュフロー計算書から読み解く 経営分析」 | 花岡 幸子著 | かんき出版 |

目次

第1章 会社の儲ける力を把握する

§ 1. 会社の収益性を把握するには？	
▶ 1. 収益性とは	2
▶ 2. 売上高	3
▶ 3. 利益	4
§ 2. 資本と利益の関係	
▶ 1. 売上高と利益の問題点	6
▶ 2. 資本利益率の考え方	6
▶ 3. 資本利益率の種類	8
研究 経営資本営業利益率について	9
▶ 4. 会社の正常収益力を示す総資本経常利益率	10
§ 3. 総資本経常利益率の分解	
▶ 1. 総資本経常利益率の分解の必要性	14
▶ 2. 総資本経常利益率の分解	15
研究 収益性は利幅または資金効率によって変化する	17
▶ 3. 総資本に対する売上高の割合	18
▶ 4. 売上高に対する経常利益の割合	20

第2章 会社の収益構造を探る

§ 1. 売上高に対する利益率（費用率）	
▶ 1. 売上高経常利益率の展開の必要性	24
▶ 2. 売上高経常利益率の展開図	26
▶ 3. 商品や製品に対する利益の割合	27
▶ 4. 売上高に占める販売費や管理費の割合	30
▶ 5. 金利負担の割合	32
§ 2. 投下資本の活動状況は？	
▶ 1. 総資本回転率の展開の必要性	34
▶ 2. 総資本回転率の展開図	34
研究 回転率と回転期間	36

▶ 3. 売上債権の回転状況	37
研究 売上債権回転期間を判断する際の注意点	39
▶ 4. 仕入債務の回転状況	40
▶ 5. 棚卸資産の回転状況	40
研究 POSシステムとEOSについて	43
▶ 6. 固定資産の運用状況	44

第3章 会社の財務体質を探る

§ 1. 会社の安全性を把握するには？	
▶ 1. 安全性とは	48
▶ 2. 倒産とは	48
▶ 3. 安全性分析の体系	49
§ 2. 資本調達的安全性	
▶ 1. 返済義務のない資本の割合	50
研究 自己資本比率の変遷	52
研究 自己資本比率と収益性	53
§ 3. 長期的安全性	
▶ 1. 自己資本（株主資本）と固定資産の割合	55
▶ 2. 長期資本と固定資産の割合	57
§ 4. 短期的安全性	
▶ 1. 流動負債と流動資産の割合	59
▶ 2. 流動負債と当座資産の割合	61

第4章 成長性分析

§ 1. 売上高増加率	
▶ 1. 企業に勢いがあるかどうかを示す	64
▶ 2. 大企業は低い、業界平均と比較する、セグメント分析も重要	64
▶ 3. 他の指標と売上高増加率を関連付ける	64
▶ 4. 企業の成長と衰退の程度を分析する	65
▶ 5. 基準年度に対する伸び率を示す（トレンドの把握に有効）	65
▶ 6. 次期の業績予測も参考に将来の見通しを立てる	66

§ 2. 利益増加率（経常利益増加率）	
▶ 1. 経常利益増加率は会社の実力の伸びを示す	68
▶ 2. 会計方針の変更にも注意する	68
▶ 3. 利益増加率の変化を他の指標から探る	68
§ 3. 総資産増加率	
▶ 1. 企業規模の拡大の程度を示す	69
▶ 2. 総資産の増加は中身が大切	69
▶ 3. 総資産の不健全な増加は財務指標の悪化となって現れる	70
▶ 4. 自己資本の増加率も検討しよう	70
▶ 5. 課題の会社を分析してみる	71

第5章 キャッシュフロー分析はなぜ必要か

§ 1. キャッシュフロー分析はなぜ必要か	
▶ 1. 安全性とキャッシュフロー分析	74
▶ 2. 倒産の意義と分類	76
▶ 3. 黒字倒産の実例	78
§ 2. 資金表	
▶ 1. 資金移動表	80
▶ 2. キャッシュフロー計算書	80
§ 3. 資金の概念	
▶ 1. 資金の概念	81

第6章 資金と利益の関係

§ 1. 企業活動と資金	84
§ 2. 資金の増減原則	
▶ 1. 利益と資金	85
▶ 2. 仕入債務と資金	87
▶ 3. 棚卸資産と資金	89
▶ 4. 売上債権と資金	91
▶ 5. 固定資産と資金	93
▶ 6. 資金増減原則	97
研究1 減価償却による自己金融効果	98
研究2 主な資産・負債の回転期間と資金繰りの関係	99

第7章 企業の支払能力を見る～資金移動表によるキャッシュフロー分析～

§ 1. 資金移動表とは	
▶ 1. 資金移動表の意義	102
▶ 2. 資金移動表の必要性	102
▶ 3. 資金移動表のしくみ	103
▶ 4. 資金移動表の様式	104
§ 2. 資金移動表のつくり方と見方	
▶ 1. 資金移動表のつくり方	105
▶ 2. 資金移動表の見方	108
事例研究3 マルコー	114

第8章 企業活動別に資金収支を見る

～キャッシュフロー計算書によるキャッシュフロー分析～

§ 1. キャッシュフロー計算書とは	
▶ 1. キャッシュフロー計算書の意義	122
▶ 2. キャッシュフロー計算書の必要性	122
▶ 3. キャッシュフロー計算書のしくみ	123
▶ 4. キャッシュフロー計算書の様式	125
研究 キャッシュフロー計算書におけるキャッシュの範囲	127
§ 2. キャッシュフロー計算書のつくり方と見方	
▶ 1. キャッシュフロー計算書のつくり方	128
▶ 2. キャッシュフロー計算書の見方	135
▶ 3. 分析指標から判定する	138

練習問題

問題	142
解答・解説	154